

令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区　名	平野区
学校名	瓜破小学校
学校長名	俵 正典

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・瓜破小学校では、第6学年58名

令和4年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語、算数、理科ともに全国・大阪府平均を下回る結果となった。国語は約10ポイント、算数は約7ポイント、理科は5ポイント、大阪府平均よりも下回っている。また、全体を通して無答の割合が全国平均よりも高く、問題を読む前にあきらめてしまっている可能性もある。

国語では領域「B書くこと」について約13ポイント低く、文章の書き表し方などに着目して回答することに課題がみられた。算数では「データの活用」について10ポイント低く、問題から必要な情報を読み取る力に課題がみられた。理科では「地球」を柱とする領域について約9ポイント低く、観察などで得られた結果から自分の考えを表現する部分で課題がみられた。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

[国語]

全国平均から10ポイント低く、中でも知識及び技能の分野で「言葉の特徴や使い方に関する事項」、思考力・判断力・表現力等の分野で「B書くこと」について全国平均との差が大きかった。漢字の書き取りや言葉の意味の捉え方の部分に課題がみられた。

[算数]

「Dデータの活用」の領域で低い傾向がみられた。3(1)、3(4)では解答まで出せてはいるが、式に表すなど、解答へ適切につなげる力が育っていない状況があった。

[理科]

理科については質問紙調査からも日頃から意欲的に取り組んでいることがわかる。ただ、短答式・記述式で答える問題で全国平均より大幅に低い結果となっており、理科でも解答の表し方に苦労をしたことがうかがえる。

質問紙調査より

質問22 「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の結果から学校の授業時間以外の学習時間が全国平均より低い傾向があった。

質問39 「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」について約19ポイント全国平均を下回っている。

質問13 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」についてはほぼ全ての児童が望ましい回答をしており日ごろの指導の成果が表れている。

今後の取組(アクションプラン)

本校では算数を中心とした主体的・対話的な深い学びの実現に向けた授業改善を目指している。職員で授業改善の方法などを共有することで、全教科を通してみられる基礎定着の課題について学校を挙げて取り組んでいる。

質問紙より明らかになった課題である、児童の学習時間確保のために、放課後の学習時間（こどもとの日）を続けるとともに、さらに学校力UPコーディネーターとの放課後学習時間の充実を図り、児童の学力向上を目指している。